

# 広報 しばた

## 笑顔でひろがる 交流の輪

仙台大学と国際交流を行っている中国の瀋陽(しんよう)師範大学で教師やスポーツの指導者を目指す学生9名が、日本の教育のシステムやスポーツの指導方法などを学ぶために来町しました。この日は、町内の少年野球チームのコーチや保護者が、学生たちにスポーツ少年団のあり方について説明。子どもたちも、野球を通して触れ合い、初めてプレーする野球に戸惑う学生たちと笑顔の絶えない和やかな雰囲気の中で、交流を深めていました。

【写真：7月1日(日) 東船岡小学校グラウンド】

# 明るい柴田町の未来を 切り拓いていくために

ワンランク上の自治体を目指し全力投球



柴田町長 滝口 茂

## 町長就任4期目を 振り返って

この4年間、「花のまち柴田」をテーマに掲げ、果敢に地方創生に取り組んで来ました。その結果、今年の桜まつりには、25万3千人余りの観光客が花見に訪れました。さらに、インバウンド政策によるプロモーション活動が功を奏し、台湾、タイ、香港などからの外国人観光客も5千人を突破しました。

特に嬉しかったのは「しばた千桜橋」から眺める東本線、白石川堤一目千本

桜、そして残雪を抱く蔵王連峰の景観が、カメラの専門雑誌「デジタルカメラマガジン4月号」の桜総選挙カウントダウン100において、第5位に選ばれたことです。「しばた千桜橋」は、鉄道カメラマンの聖地の一つに数えられるようになりました。

もう一つ特筆すべきことは、「花のまち柴田」の回遊拠点ルートづくりが、都市再生整備計画を対象とした※まち交大賞で「まちづくり効果賞」を受賞したこととです。「景観を損ねる」とか、「経済効果がない」との

## スローガン

① 子どもたちには  
「夢と教育」を

② お年寄りや障がいを持つ皆さんには  
「健康と安心」を

③ 柴田町には  
「仕事おこしと人材育成」を

批判もあった「しばた千桜橋」を含む花回廊の整備が、第三者に高く評価されたことに、とても感慨深いものがあります。

また、小・中学校のトイレの洋式化やFF式暖房機への切り替えを行った際には、子どもたちから感謝の手紙が届きました。まさに政治家冥利につきるものでした。

官主導の政策が順調に進み、住民や企業などの動きも活発になってきました。春のビッグイベントに成長した「柴田さくらマラソン」の開催、住民が2年か



毎回多くの来場者で賑わう住民主体のイベント  
「しばたJam+Jam手づくり市」

けて柴田町の魅力を調べた「しばた100選」の選定手づくりイベントとして定着してきた「しばたJam+Jam手づくり市」や商工会女性部による「みちのく招福まつり」も人気を博しています。

社会施設などの整備についても、小規模保育園の開設や特別養護老人ホームの移転新築工事が始まり、加

えて、新たにショッピングセンターが2件オープンする予定となっています。今まさに行政ビジネスも民間ビジネスも共に勢いづいておりといっても過言ではありません。

これまでの取り組みで、役所には政策力と稼ぐ力が付き、民間の皆さんには、やる気とチャレンジ精神が生まれています。また、仙

南4市9町との連携も順調です。その結果「花のまち柴田」の知名度は格段に向上しました。まだまだA級観光地に肩を並べるまでには至っていませんが、B級観光地としての橋頭堡は確保できたのではないかと思っています。

### 将来に向け、柴田町の勢いをさらに加速

勢いづいている柴田町をさらに将来に向けて加速させていくのが、今回、私に与えられた使命ではないかと思っています。おしゃれでモダンな都市や心安らぐ農山村をつくることで、町への集客力が高まると思います。

まずは、その基盤となる安全安心なまちづくりをしつかりと進めてまいります。

喫緊の課題となっているのが自然災害への対応です。槻木下町、下名生剣水・剣塚、入間田、成田地区など

の冠水対策を早急に実施するほか、地域防災マネージャーと自主防災組織との連携を強化し、地域防災力の向上に努めてまいります。

二つ目に、お年寄りの皆さんや障がいのある方々が健康で安心して暮らせるまちづくりです。

在宅医療と介護との連携や、日常生活を支援するしくみづくりなど、地域包括ケアシステムの確立を図ってまいります。また、障がいのある方が困ったときのための「ヘルプカード」の普及を進めてまいります。

三つ目に、子育てや教育環境の充実です。子どもたちが快適な環境の中で学習



休日には、子どもたちの笑顔でいっぱいになる太陽の村のターザンロープとふわふわドーム

できるよう、学校のトイレの洋式化や学校施設の大規模改修を優先的に進めてまいります。また、「放課後英語楽交」のさらなる取り組みを強化するとともに、ベラルーシ新体操ナショナルチームなどとの交流を図り、国際感覚豊かな子どもたちを育て、また、太陽の



船岡、槻木、船迫地区それぞれに特徴のあるコースが設定されているフットパス

村に大型の冒険遊具などを整備し、たくましい子どもたちを育ててまいります。さらに待機児童の解消に向けて、平成31年度に開設を予定している民間の小規模保育園の立ち上げを支援してまいります。

## ワンランク上の自治体を目指して

こうした安全安心といっ

たまちづくりの土台をしっかり固めた上で、今後、ワンランク上の自治体を目指し、柴田町独自の政策を展開していきたいと思っております。

その政策の一つは、魅力ある街並みを形成し、まち中に人を呼び込み、賑わいを創り出すことです。まずは、道路、側溝、公園、住宅、防犯灯、交通安全施設

といった、基礎的な社会インフラを計画的に整備した上で、四季折々に歩いて楽しい花回廊やフットパスコースの整備を図り、まちを活気づけてまいります。特に、新しい観光名所として、桜並木が五列に並び「五連桜」を整備し、国内外にシティプロモーションを仕掛けてまいります。

町民の皆さんの最大の関心事となっている総合体育館や新しい図書館は、魅力ある都市環境をつくる上で標準装備として欠かせない施設ですので、その建設に向けた道筋を明らかにしてまいります。

## 確かな財源の確保

こうした政策を裏付けるのが確かな財源です。平成29年度末現在で、財政調整基金など（普通預金）に16億8600万円、その他、総合体育館、新図書館、学校給食センター建設のため

の目的基金（定期預金）として7億8千万円の積み立てを見込んでおります。

さらに、「柴田町を応援したい」という全国の皆さんからの平成29年度のふるさと柴田応援寄附金が約2億円となり、県内第5位の寄附金額となりました。着実に「花のまち柴田」のファンが増えていけると手ごたえを感じております。今後とも税収確保に向けた推進エンジン役となる地域産業の振興を積極的に図ってまいります。

## 地域産業の振興と新たな仕事おこし

農業の振興については、ほ場整備を着実に進め、効率的な水田農業を推進します。商店街の振興については、様々なイベントを通して、商店街に人を呼び込み、賑わいあふれる観光型商店街づくりを目指します。

ものづくり産業の振興につきましても、柴田町工

場等連絡協議会と連携し、新たな活路開拓を支援してまいります。

特に若者たちの田園回帰の流れをとらえ、地域の資源や空き家などを活用したローカルなビジネス起こしとして注目を浴びています。

柴田町においても、上川名地区の濁酒や農村レストラン、入間田地区の農産加工、醸造酢、成田、葉坂地区の産直といった仕事おこしの芽が育っており、これと新たなキャンプスタイルであるグランピングとを有機的に結びつけ、集落ビジネスや里山ビジネスとして育てたいと考えています。

田園志向の若者が魅力的な地域づくりや地域磨きの担い手として活躍することで、個性豊かで多様な人材が育ち、地域集落の持続的な発展に結びつくものと思えます。

## これからの4年間

これからの4年間、明るい柴田町の未来を切り拓いていくためのスローガンとして「子どもたちには、夢と教育を」、「お年寄りや障がいを持つ皆さんには、健康と安心を」、そして「柴田町には、仕事おこしと人材育成を」をモットーに、ワンランク上の町政運営に全力を投入してまいります。

最後に、5期目となれば町民の皆さんの中には、多選によってもたらされる弊害、例えば組織の緩みや怠慢、政策のマンネリ化や陳腐化、住民意識の停滞や地域活力の低下、さらに、リーダーのおごりやワンマン性を心配される方もいらっしゃるかと思います。しかし、私はこれまでも、常に地方創生戦略へのアンテナを高くし、柴田町独自のアイデアや新鮮な政策を考え、住民との協働のもと

に、公平で公正な町政運営を進めてきたと自負しております。これからも、決しておごることなく、この姿勢を貫きたいと思っています。

年を重ね、見た目は少し衰えたようには見えますが、「花のまち柴田」のブランド化や「フットパス構想」を通じて、柴田町を「もっともっと住み良いまちにしたい」、柴田町を「もっともっと有名にしたい」という情熱はいかほども衰えておりません。みずみずしいままだと思っております。

今後とも、さわやかな自治体、スピード感のある自治体、そして信頼される自治体を目指してまい進し、町民の皆さんに対し、長期政権への懸念を払しょくするような成果や実績を、お示ししてまいりたいと思っております。

これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

※まち交大賞については、14ページに詳細を掲載しています。



# 楽しく 笑顔で 全力プレイ 町民スポーツ大会



スポーツを通して体力の増進と町民相互の親睦を深めるため、町民スポーツ大会が開催されました。年齢、性別を問わず、ひたむきにスポーツに取り組み、試合後には健闘をたたえ合う姿に観客からは惜しめない拍手が送られました。

ビニールボール、グラウンド・ゴルフは9月2日(日)に七ヶ宿町で行われる「宮城ヘルシー 2018 ふるさとスポーツ祭」の出場を決める予選会も兼ねています。暑さを吹き飛ばす熱戦の結果を紹介します。

問スポーツ振興課 ☎55-2030

## 第38回町民ゲートボール大会

6月7日(休) 総合運動場 27人 5チーム参加

- 【優勝】新寿会A
- 【準優勝】柴田さくら会
- 【第3位】長生会



## 第15回町民バドミントン大会

6月17日(日) 船岡体育館 40人 20組参加

### ダブルス1部

- 【優勝】石川 司樹  
大槻 由衣
- 【準優勝】氏家 大輔  
氏家 静香
- 【第3位】三瓶 彬  
内山 裕士

### ダブルス3部

- 【優勝】大宮 静雄  
大村 正利
- 【準優勝】大場 広子  
木村 輝夫
- 【第3位】菅原 利枝子  
林 等

### ダブルス2部

- 【優勝】笠松 裕子  
芦名 由紀子
- 【準優勝】加藤 雄  
岡部 英明
- 【第3位】大宮 司  
菅井 昴

### ダブルス4部

- 【優勝】佐藤 俊一  
武山 昭彦
- 【準優勝】今野 照一  
升澤 正孝
- 【第3位】佐々 恵子  
四釜 勝美



## 第43回町民ラージボール卓球大会

6月24日(日) 船岡体育館 37人参加



### 男子シングルス1部

【優勝】大沼 宏之  
【準優勝】藤田 浩三  
【第3位】高橋 裕一

### 男子シングルス2部

【優勝】柴崎 文雄  
【準優勝】我妻 弘宣  
【第3位】太田 賢二  
及川 信

### 女子シングルス

【優勝】佐々木 征子  
【準優勝】安藤 園子  
【第3位】今野 康子  
桜井 美佐子

### 混合ダブルス

【優勝】大沼 宏之	佐々木 征子
【準優勝】藤田 浩三	吉澤 たい子
【第3位】中村 勝彦	後藤 トキ子
佐藤 佳子	安藤 園子



## 第46回町民ソフトボール大会

6月24日(日)・7月1日(日) 総合運動場、阿武隈川グラウンド  
335人 18チーム参加

### Aブロック

【優勝】三ヶ屋敷  
【準優勝】フィルダース  
【第3位】北船岡  
12区リバーズ

### Bブロック

【優勝】上町ソフトボール  
【準優勝】新小路  
【第3位】大橋インハックス  
アルバトロス





## 第56回町民ビニールボール大会

7月1日(日) 船岡体育館 70人 6チーム参加

【優勝】西船迫BC

【準優勝】チーム西住

【第3位】EAST



## 第21回町民グラウンド・ゴルフ大会

7月14日(土) 総合運動場 127人参加

【優勝】野村 武治 (上名生 GG)

【準優勝】加納 勝美 (槻木 GG)

【第3位】日下 鉄男 (槻木 GG)



# 安全で安心な給食を提供しています



柴田町学校給食センターは、昭和56年4月に現在の場所で業務開始以来、必要に応じた修理や修繕、また調理機器などの定期的な入れ替えを行い、調理環境の整備と衛生環境の確保に努めながら稼動しています。

## 平成26年度



煮物や汁物を作る蒸気回転釜7基入れ替え

学校給食センターでは、平成26年度から29年度に調理室および洗浄室で使用している調理機器などを次のような最新鋭のものに入れ替え、給食調理を行っています。

## 平成28年度



食器・食缶・調理機器などの消毒と衛生的な保管のため消毒保管庫の入れ替え

## 平成27年度



サラダなどの冷温調理の温度保持のための真空冷却機2基設置



フライ調理のための連続揚物機



焼き物、蒸し物調理のためのスチームコンベクションオープン3基設置

## 平成29年度



食器・食缶洗浄機



このほかにも洗浄室の衛生環境保持のために冷暖房エアコンを8基新設し、給食を学校に届ける際に使用する食缶とコンテナを全て新しくしました。

また、施設面での整備も進めています。改修工事などは夏休み期間を利用して行いますので、一度に全部終わらせることは困難です。そのため、今後、新センターが建設されるまでの間は、計画的に改修工事を進めていきます。

## 柴田町学校給食センター改修工事計画

- 平成29年度 ・大型冷凍室改修工事
- 平成30年度 ・調理室および洗浄室の屋上防水改修工事
- ・消毒室手指消毒設備改修工事
- ・大型冷蔵室改修工事
- 平成31年度～ ・調理室床改修工事
- ・調理室等換気設備改修工事 ほか

これからも、小中学生の皆さんに給食をおいしく食べていただけるよう、安全で安心な学校給食を提供していきます。



四季折々の行事にちなんだ給食も提供しています。写真は七夕にちなんだ給食。

問 柴田町学校給食センター

☎ 54-1474

教育総務課

☎ 55-2134

広 告

広 告



# 健康情報クリップ

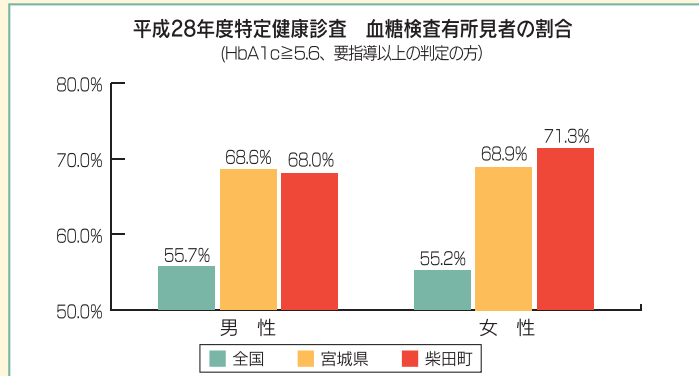
なるほど!

みんなの健康ライフ シリーズ48

健康推進課 TEL 55-2160 FAX 55-4172

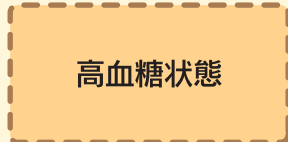
第48回のテーマは「高血糖」についてです。

町の特定健康診査の結果、受診者の約7割が高血糖ということが分かり、また、昨年度実施した町民健康調査の結果から、4人に1人がほぼ毎日ジュースやスポーツ飲料、砂糖入りコーヒーなどの甘味飲料を飲むことが分かりました。



出典：国保データベース (KDB) システム (H28)

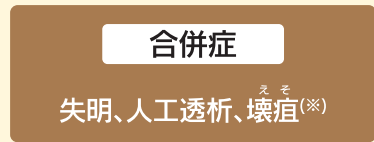
## 高血糖状態が進行すると…



遺伝や不健康な生活習慣により、血糖を下げる働きをするインスリンの作用不足が原因で、血液の中に糖が多量に流れている状態。



糖尿病は全身の血管や神経を傷つけます。



※感染や火傷、血行障害などにより、体の組織が破壊されること。

## 高血糖にならないために…今日から始めよう+1の行動改善

### 食事

- 野菜から食べよう
- 甘い飲み物を減らそう



### 運動

- あと15分歩こう
- 早歩きしよう
- 階段を使おう



### 健診・受診

- 年に1度は健診を受けよう
- 必要な方は医療機関を受診しよう



## 保健師からのワンポイントアドバイス

- 運動は血糖が上昇する、食後1～2時間に行うと効果的です。
- オレンジジュース(500cc)を水やお茶に代えることで、スティックシュガー約20本程度の糖分を減らすことができます。

広 告

広 告

# まちかど NEWS



今年は約3,500株に増えた紫陽花が船岡城址公園を彩りました。



浴衣を着て散歩する着付け体験参加者の皆さん。紫陽花をさらに引き立たせてくれました。

## 色とりどりの紫陽花が咲き誇る 「第5回しばた紫陽花まつり」

NEWS

6月15日(金)から7月1日(日)まで、船岡城址公園を会場に「しばた紫陽花まつり」が開催されました。

今年で5回目となり、町の初夏の風物詩となったこのイベントには、町内外から約1万4千人が訪れ、風情ある紫陽花を楽しんでいました。

期間中は、多彩なイベントが行われ、浴衣着付け体験に仙台市から友達と2人で参加した台湾人のチェン・ユイハオさんは「ポスターでこのイベントを知りました。浴衣は初めてですが、特別な感じがしてかっこいいです」と笑顔で話してくれました。

## 865日間交通死亡事故抑止で

NEWS

### 褒状(ほうじょう)受賞

柴田町は、7月3日(火)に町内での交通死亡事故ゼロ865日(500日と1年)を達成しました。これを受けて、5日(木)、役場庁舎で、県知事からの褒状伝達式がありました。

交通安全に尽力されている関係団体の方々がいる中、褒状を受け取った滝口町長は、「この記録達成は、町にとって初めてのことで、今後も関係団体や町民と力を合わせて交通死亡事故ゼロを継続させていきたい」と決意を述べました。



多くの皆さんの支えにより、記録を達成できました。

広 告

広 告

## しばた100選を見てみよう

6月26日(火)、しばた100選を巡るバスツアーが開催されました。しばた100選は、「伝えたい、残したい、自慢したい、しばたの宝もの」をテーマに町の資源を公募し、その中から町民の皆さんが100の宝ものとして選定したものです。

今回は、船岡の土手内地区や船岡城址公園にある宝ものを巡りました。

参加者からは「自分の住む身近なところにこんな宝ものがあると知らなかった」、「町の魅力を再発見できた」などの声が聞かれました。



次回は、9月に三名生、西住地区を巡る予定です。

## 「ばばの郷」お披露目会



もちろん弁当は地元で採れたものを中心に作られています。

6月21日(木)、国の地方創生事業を活用し、入間田地区の活性化に向けた小さな拠点づくりを目指して、3月に設立された入間田地区農産加工組合「ばばの郷」(星市夫組合長)と加工施設のお披露目会が農村環境改善センターで開催されました。

ばばの郷では、現在、弁当の製造、販売を中心に行っていて、今年のおさくらまつりでも販売されたそうです。

星組合長からは、「地元の皆さんや関係機関の方々のご協力まで来てことができました」と挨拶があり、参加者には、組合員がこの日のために作ったお弁当とお菓子が振る舞われました。

## 花を育てて、心も育てよう

花をみんなで育てることで、命の尊さを実感し、豊かな心、優しさと思いやりの心を育てることを目的として、7月9日(月)、西住小学校の3年生を対象に「人権の花運動」が行われました。

みんなで「日々草」をプランターへ植栽した後、人権擁護委員の方による人権教室が行われました。

命の大切さやいじめについて学習し、寺山咲羽さんは「いじめはやっぱり駄目だと思いました。大切な花の命を育てるため、水やりはしっかりやります」と話してくれました。



「いじめはしない、させない、みのがさない」とみんなで大きな声で誓いました。

広 告

広 告

俳句

マロニエの咲く駅前を待つ 船岡 可沼 妙子  
 夏の文心の思い響かせて 船岡 安藤 節子  
 花水？風もおよがせハーバリウム 西船迫 安ヶ平奈津枝  
 いちご月赤い光は雲の中 西船迫 深見 半翁  
 綺麗でしよ私紫陽花雨が好き 葦神 葛  
 古都を行く僧の大きな黒日傘 笠松ふみ子  
 夏の雲棺に入れし世界地図 中野西範子  
 もう杖のいらぬ母なり天の川 石垣テル子  
 朝顔の今朝の一輪空にあり 制野 千秋  
 青々と山動きだす朱夏の天 遊佐 徹  
 山峡の空は四角に星の恋 山家美智子  
 晩酌を控えて臨む夏の山 三塚 直樹  
 長雨や青田の青を膨らませ 及川美沙子  
 生温き風に吐息や凌霄花 若月ノリ子  
 羊水の音緑陰のいづこより 大久保和子  
 荒梅雨や神も滂沱とされ給ふ 浪山 克彦

川柳

メダリスト長蛇の列の写真展 西船迫 H・G  
 美味しくはまっつしまつたズッキーニ 船岡 阿部美代子  
 紫陽花を写真撮りたい絵にしたい 西船迫 安ヶ平良三  
 むらさきの沼一面のあやめかな 槻木 加藤 マサ  
 米朝が握手している米中は 西船迫 舟廻めぐる  
 老いらくの恋の話も夕涼み 笠松ふみ子

短歌

米朝の両首の握手に望むのは 船岡 可沼 妙子  
 拉致被害者の明日の帰りを 船岡 可沼 妙子  
 夏空にグラウンドゴルフ和気あい々 西船迫 下浦 智子  
 ホールインワンで疲れも楽し 西船迫 下浦 智子  
 待ち合いて看護師さんの「おはよう」で 船岡 伊藤タイ子  
 痛い話も一瞬和む 船岡 伊藤タイ子  
 「かわいいね」じつとしてゐる雨がエル 船岡 眞六  
 孫の「こわい」はアリの行列 船岡 眞六  
 無我夢中サッカー選手燃焼す 船岡 眞六  
 暑さ忘れるワールドカップ 船岡 眞六  
 電柱を日時計みたて警備立ち 船岡 眞六  
 今夜の肴鱒と決めて 船岡 眞六  
 大槻 信吉

俳句・川柳・短歌に興味があり、こうほう文芸に載せたい方は、はがきなどで8月8日(水)までご応募ください。 岡 まちづくり政策課 ☎54-2111

第13回まち交大賞  
 「まちづくり効果賞」受賞

平成23年度から28年度までに、国の社会資本整備総合交付金事業を活用して「白石川千桜公園整備事業」、「桜の小径形成事業」、「しばた千桜橋整備事業」、「船岡新栄地区の街区公園整備事業」および「歴史観光ガイド育成事業」などを実施しました。これらの「新船岡地区都市再生整備計画事業」が、住民と協働で回遊拠点の整備を進め、目標以上に大きな成果を挙げた点や歴史観光ガイド育成に取り組み、その参加者が主体となって「しばた歴史観光ガイドの会」の立ち上げにつながった点で高く評価され、「まちづくり効果賞」を受賞しました。



今後も、さらなる事業効果が維持向上できるよう「船岡城址公園」、「白石川千桜公園」や「しばた千桜橋」を活用したまちづくりに取り組んでいきます。

**まち交大賞** 全国700地区以上の都市再生整備計画事業実施地区を対象に優れた取り組みを表彰するもので、優秀な事例を全国に紹介し、地域の創意工夫を活用した「まちづくり」を促進することを目的として実施されている。  
 主催/まちづくり情報交流協議会、一般財団法人都市みらい推進機構 後援/国土交通省  
**まちづくり効果賞** 地域の創意工夫を活かしたまちづくりの取り組みが行われ、計画の策定、事業の実施、評価などにおいて特徴があり、全国の都市・地域再生のモデルとして優れた地区に与えられる賞で、宮城県内では柴田町が初の受賞。



# 柴田町の 記憶 をたどって

子どもたちにとって楽しみな給食の時間の様子です。



おいしそうに食べる船迫小の子どもたちと当時のメニュー。  
(広報しばた昭和56年5月号より)

※お詫びと訂正 広報しばた5月号P10、7月号P8に掲載したディードットステーション大河原教室様の広告内容に誤りがありました。お詫びして訂正します。【正】住所 大河原町字町125-1

広 告

広 告

広 告

# こども美術館



「あじさいとかえる」(工作)

船岡小学校1年

日下 真依 さん



「あざやかトマト」(絵)

船岡小学校5年

佐藤 結南 さん

広 告

広 告

## 畳の上で家族が笑顔で 過ごしていただけのように

赤坂畳店  
赤坂 慎さん(29歳)

今回は、土手内地区で畳の製造・販売などを行っている赤坂畳店の赤坂慎さんをご紹介します。



お盆前のこの時期に畳の新調や張替えを行う方も多いのではないのでしょうか。夏の暑い時期、畳の「い草」の香りはとても心地の良いものです。

「4月の引越しやお盆前の帰省などで人が動く時期は忙しくなりますね」

こう話してくれるのは老舗畳店の四代目、赤坂慎さん。

赤坂さんは新畳の製造や、傷んだござの部分を持ち替える表替えなどの作業を行っています。

高校卒業後は車の部品の製造工場に勤務しながら、家業である畳店を手伝ってきました。東日本大震災後、住宅の再建が進むに比例して畳の需要が増え、忙しく働く両親の姿を見て、3年前に家業を継ぐ決心をしました。

仕事を行う上で気をつけている事を伺うと「畳を敷く部屋の採寸をしっかりと行うことが、畳を収めた時の美しい仕上がりにつながるためとても重要になります。また、今は、昔ながらの畳よりも、畳縁の

無いデザイン性の高い畳の需要が増えてきています。お客様の要望に応えることができるよう技術の向上に努めています」と話します。

デザインだけではなく、畳の作り方も、昔ながらの手縫いから機械式が主流になり、師である父の指導を仰ぎながら3年間で新畳の製造、張替えなどの技術を磨いてきました。「今までは楽しく仕事をさせてもらっていましたが、作業中心の仕事から、今後は営業に出て畳を売り込まなければならぬ。本当に大変なのはこれからですね」と話します。

後継者の問題などで、町内でも畳を専門に扱うお店が少なくなってきた中「まずは地域の方に自分の顔と名前を覚えてもらえるようになります。そして、いずれは父を超えられるような職人になりたい」と抱負を語ってくれました。日本の生活に欠かせないものづくりの職人として、これからも頑張ってください。



痛んだ畳のござの張替えを行う赤坂さん。



### 赤坂畳店

柴田町船岡土手内3丁目10-16-1  
TEL 54-1547

戦後に角田市にて創業。昭和38年に柴田町へ移転。新畳の製造・販売などを手掛ける。従業員3人。

人口と世帯数  
(平成30年7月1日現在)



38,000人  
(前月比12人減)



18,973人  
(前月比6人減)



19,027人  
(前月比6人減)



15,748世帯  
(前月比2世帯増)

※平成24年7月9日の住民基本台帳法の改正に伴い、外国人を含む人口と世帯数となります。